

有限会社育葉産業（大分県）

JGAP 2006年取得 水耕みつば

所在地：大分県豊後大野市大野町田中390番地 面積：0.73ha
応募区分：個別経営の部 構成員：32名
栽培品目：水耕みつば



育葉産業におけるみつば水耕栽培

▼GAPに取り組んだきっかけ

- （有）育葉産業は「システム化した経営で儲かる脳業※1」の実現に向け、システムエンジニアだった代表が1992年に脱サラしてみつばの水耕栽培を開始。 ※1:考えて儲かる農業という表現で、'農'を'脳'に置き換えている
- 根拠ある安全な商品作りを目指して、JGAP認証の黎明期であった2006年12月に水耕みつばでのJGAPを取得し、現在に至るまでGAPの取組を継続している。

▼生産工程管理の改善に向けた継続的な取組

- 従業員の働きやすい環境を整備するため、今までに蓄積した栽培履歴データから生育日数などを算出し、播種、定植、収穫予定日の栽培計画を立て、4～5連休を含む年間スケジュールを作成している。銀行や役所、病院通いに便利な、平日休みの導入が好評である。

▼生産効率性の向上に向けた取組とその効果

- 培養液の分析データをベストブレンド量的管理版※2の演算でみつばの吸収する追肥バランスを最適化し、独自で設計したきめ細かな肥培管理システムにより肥料濃度を半分にした上、無駄のない施肥により肥料使用量を半減させるなど自動化及び省力化を実現しながら、計算された計画的で効率的な栽培を実現。

※2:大分県農林水産研究指導センターと共同作成した追肥配合ソフト

▼経営の改善に向けた取組と効果

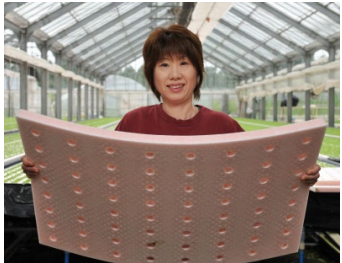
- みつばの栽培パネルについて、従来よりも2～3倍長持ちする割れにくく高耐久のポリプロピレン製（PP）をメーカーと協力して開発し、廃棄ロスを抑える。
 - 市場関係者等との情報交換を積極的に行うことで綿密な栽培計画を策定。効率的な栽培を実施し実需からの高い評価を受ける。
- ⇒一般的な価格と比較して3割ほど高値での取引を実現

▼波及効果

- 県内の農業教育機関で農業やGAP等の講義を実施し、長年にわたり県の新規採用職員研修の受入にも協力。
- NPO日本養液栽培研究会、一般社団法人日本施設園芸協会等、様々な組織で講演や研修講師等で活動し多くの農業者に対して、GAPや農業技術の普及に取り組む。



温度、肥培管理、モニタリングシステム



開発した割れにくいPPの栽培パネル